

# Thomas M.A. Spindler

トーマス・シュピンレルさん

ドイツ出身。学生時代、日本に興味を持ち1978年最初の来日。1981年からは本格的に禅の修行を始め、以後日本で生活。フリーで英語・ドイツ語の翻訳を手がける傍ら、京都芸術大学でドイツ語の講師も勤める。また、エッセイも大得意とか。日本語堪能。ソフトな関西弁を操る。日本人の奥さまと愛犬パブロフと共に滋賀県甲賀郡在住。



## 妙心寺

仁和寺から東南へ徒歩15分。花園上皇の離宮が禅寺となり、臨済宗妙心寺派の本山が開かれた。広い総門を抜けると、境内には塔頭が47も立ち並ぶ広大な寺。

今月から始まったこのコーナー。京都在住の外国人の方に「お気に入りの京都」を教えてもらうという試み。さてその第一回目は、長身と静かな物腰が印象的なシュピンレル氏。彼にとつての京都とは、との問いに妙心寺と即座に答えてくれた。ドイツにいた頃から日本への興味を深め、遂には禅の僧になるべく来日。修行に選んだのは、最も厳しいといわれた嵯峨野の天竜寺。その後、友人の紹介からこの妙心寺で本格的修行をスタートしたとか。

「友達と二人で住み込みました。朝早く起床、清掃から始まってお経や座禅を学ぶ毎日。食事も交代で作りましたよ。冬はスッゴク辛かったですね。でもとても勉強になりました。」しかし半年が過ぎた頃、彼の心には様々な思いが。  
 「ある日寺を出てひとり、山の中で座禅を組んでいました。その時頭の中には2つのシチュエーションがあって、このままに残るか、それとも寺を出て新しい道へ進むか、ふたつにひとつ考えました。」  
 金銭的な問題もあって、寺を出てしまえばドイツに帰るしか道がない状況であったにもかかわらず、彼が出した結論は、「寺を出よう」。  
 この日本で何のつてもなかったものの、友人宅に泊り積極的に人と新しい出会いを重ねるうちに、教師の仕事を得、その後はトントン拍子。「妙心寺で学んだことは、未来のことをよく悩むよりまず目の前のことを考えるということ。物事にはいつも2つの道しかないのです。イエスカノーか。私は寺を出てからのプランは真っ白だったけれど、自分にプレッシャーを与えることで勇気が出たんですよ。そこからは自分次第。世の中に偶然なんてないです。」妙心寺での生活は彼に新しい道へのきっかけを作った様子。では日本のお寺について何かひとこと。「日本の寺は素晴らしい。でも単に綺麗にして観賞用にしておくだけじゃもったいないね。もっと一般の人が、自分を見つめ直すチャンスを作るような積極的な場所になればいいのじゃないか。私が昔、禅で学んだのと同じようにね。」

# Today is your tomorrow.



Living for a dream is most important. But if your dream changes you should find the courage to start something new. When I was continuing with a lifestyle that I didn't want to live any longer, I suddenly realized that I was betraying myself. With every new day I was going further in the wrong direction. But if your basic direction is wrong, whatever you do gets wrong. I think it is important to re-evaluate your lifestyle and your relations every day again and change your life when ever it is necessary.

## ワンポイント英語

Your life is already lost, if you haven't lived it as you wanted to live it.

望み通りに生きてゆきたい。でなければ、人生など終わったも同じこと。